伊方発電所3号機新規制基準への適合性確認申請における原子力安全専門部会の重点審議事項について（耐震）【概要】

：今回の内容

地震動の種類

敷地ごとに震源を特定して策定する地震動
（詳細な調査に基づき設定）　（p7～p10）

- 内陸地殻内地震
- 海洋プレート内地震
- プレート間地震

地震発生メカニズム毎に整理

敷地に影響を及ぼす地震をリストアップ
○内陸地殻内地震
（敷地周辺の活断層、および敷地に影響を及ぼす可能性のある活断層）
○海洋プレート内地震
（敷地での震度5程度以上の地震）
○プレート間地震
（敷地での震度が5程度以上、または敷地に影響を及ぼす可能性のある地震）

検討用地震の選定

検討用地震の選定
敷地に与える影響を比較　（p12～p15）

- 検討用地震①　内陸地殻内地震
- 検討用地震②　海洋プレート内地震
- 検討用地震③　プレート間地震

3種類の地震毎に最も影響の大きい地震を検討用地震として選定（応答スペクトル法）
○内陸地殻内地震⇒敷地前面海域の断層群（中央構造線）による地震
○海洋プレート内地震⇒1649年安芸・伊予の地震
○プレート間地震⇒南海トラフの巨大地震

地震動の評価

応答スペクトルに基づく地震動評価
（p17～p28）

応答スペクトル法により、不確かさを考慮して地震動評価を実施した結果、現行のSs-1に包絡される

断層モデルを用いた手法による地震動評価
①内陸地殻内地震（p30～p51）
②海洋プレート内地震（p53～p60）
③プレート間地震（p62～p69）

①内陸地殻内地震（敷地前面海域の断層群）の断層モデルを構築し、不確かさも考慮して地震動評価を実施した結果、現行のSs-1に包絡される
②海洋プレート内地震（1649年安芸・伊予の地震）の断層モデルを構築し、不確かさも考慮して地震動評価を実施した結果、現行のSs-1に包絡される
③プレート間地震（南海トラフ巨大地震）の断層モデルを構築し、不確かさも考慮して地震動評価を実施した結果、UD方向の長周期帯で一部Ss-1を上回ったが、その部分は現行のSs-2を下回っている

基準地震動の策定

基準地震動の策定